

博士前期課程：カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針および実施方針）

（編成方針）

1. 博士前期課程の教育課程の編成は、経営経済領域における課題の発見、分析及び解決に役立つ柔軟かつ専門的な応用能力と自ら考える姿勢を身につけることを目的とする。
2. 博士前期課程の教育課程の編成は、基本的な知識の修得の上に専門応用能力を獲得することを要点とし、経営学アプローチと経済学アプローチの複眼的視点による知的連携効果を目指す。
3. 博士前期課程の教育課程の編成においては、専門性を確保し、効果的に教育研究を行うため、経営専修、経済専修および地域専修の三つの専修分野を設定する。

（実施方針）

・基本的な知識の修得から専門応用能力の獲得へと段階的に能力を高めうるように、基礎科目を専修横断的なものと位置づけ、基幹科目および展開科目を専修別に体系的に配置する。

・コースワーク（講義科目）については、26単位（「研究調査」を選択した場合は、28単位）を修了要件とし、1年次春学期には、履修者各自の関心に基づいて、基礎科目である「基礎講義科目」の内、1科目（2単位）以上を選択必修とする。

専門能力の基盤を構築できるように、「基幹科目」から6単位以上を選択必修とするとともに、当該6単位の内、4単位以上を選択登録した専修分野の基幹科目によって修得することを求めることで、専門性を高められるようにしている。

同時に、「展開科目」においては、専修分野以外の講義科目へと選択の幅を広げることにも配慮し、複眼的・多角的な視点に基づく柔軟な応用能力を高めることができるようなカリキュラムとする。

・リサーチワーク（演習科目）については、履修者の複眼的視点の修得に資するように、基礎科目である「基礎演習」（2単位）を1年次春学期の必修とし、複数の専修に属する教員によるオムニバス形式で演習を実施する。

1年次秋学期には、履修者が属する専修を意識しつつ、その能力の向上のためのリサーチワーク（演習）を始めることとし、「特定演習Ⅰ（2単位）」および「同Ⅱ（2単位）」のうち、1科目を選択必修とする。

2年次では、「課題研究指導（4単位）」を必修とし、「修士論文」あるいは「研究調査」作成に向けて、専門性を重視した指導を行う。

博士後期課程：カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針および実施方針）

（編成方針）

1. 博士後期課程の教育課程の編成は、経営学と経済学の高度な概念枠組みに基づいた分析力と論理構成力の修得と実証能力の育成を要点とし、経営学アプローチと経済学アプローチの複眼的視点による知的連携効果を目指す。
2. 博士後期課程の教育課程の編成においては、課程制大学院の考えにより段階を踏んだ教育研究を行うため、博士論文作成の段階的指導と、経営経済分野の高度な学問的水準を確保する体系的指導を行う。

（実施方針）

- ・経営経済分野の高度な学問的水準での指導を行うべく、コースワーク（講義科目）としての「特別研究科目」と、リサーチワーク（演習科目）としての「総合演習科目」ならびに「論文作成研究指導」を体系的に配置する。
- ・コースワーク（講義科目）については、履修者の高度な専門的関心を尊重するとともに、複眼的・多元的な視点の獲得を重視して、4単位以上の修得を修了要件とする。
- ・リサーチワーク（演習科目）については、履修者の複眼的視点の修得に資するように、「総合演習科目」2単位以上の修得を修了要件とするとともに、「論文作成研究指導」においては、1年次に「演習Ⅰ（4単位）」、2年次に「演習Ⅱ（4単位）」を必修とし、「博士論文」作成に向けて、高度な専門性を重視した段階的指導を行う。